

長岡税務署長賞

税金が支える「当たり前」

長岡市立秋葉中学校

三年 八木 あいり

今、私たちが暮らしの中で「当たり前」と感じている出来事のひとつが、税金によって支えられていることを知っていますか。税金の使われ方で私たちに身近な例でいえば義務教育である九年間の授業料、教科書の無償化などが挙げられます。私は、今まで税金について気づいていないことがたくさんありました。そんな私と同年代の人の中には税金のありがたさを知らない人も多くいます。また他には、税金をくわしく知らないうちにテレビやインターネットなどの影響を受けて、税金に対して悪いイメージをもってしまう人もいます。私はぜひ、そんな私と同年代の人たちに税金によって私たちの「当たり前」である暮らしがどのように支えられているのかということを知ってほしいです。

まず、私が一番に知ってほしいのは、最初にも挙げたような教育面での税金の使われ方です。学校といわれて思いつく黒板や跳び箱などほとんどの用具は税金によってまかなわれています。もちろん、私たちが普段学校生活を送る校舎や体育館などの建物もそうです。これらの建設費として一年間に七百八十八億円もの税金が使われています。また、公立学校

に通う小中学生一人当たりに使われる税金は百万円近くにもなります。日本ではすべての国民が平等に教育が受けられるように、多くの税金が使われているのです。ですが、他の国や地域では教育を受けたくても受けられないという私たちと同じ年代の人がたくさんいます。ですから、このようにすべての国民が教育を受けられる環境は決して「当たり前」ではないのです。

さらに、税金によって支えられている場面はまだまだあります。医療、介護、年金、福祉などでも税金が使われています。これらのしくみを社会保障といい、この社会保障が国の歳出の三分の一を占めています。もし、税金がなかったら、これらのような私たちの暮らしの中で「当たり前」だと思っていることがそうではなくなってしまうのです。税金は私たちの暮らしに、欠かせないものなのです。そんな税金を納めているのがこの国のすべての人々です。ですから、私はこの税金がたくさんの人と人をつなぐ大切な役割を果たしているのではないかと思えます。自分が納めた税金で実際に会ったことのない誰かを助けたり、その反対に誰かが納めた税金によって助けられていることはたくさんあると思えます。こうやって私たち一人一人の暮らしが「当たり前」のように存在するのだということを知りました。多くの人がもつ税金に対する悪いイメージは税金について少しでも調べたり、考えたりすればすぐに払拭できるものだと思います。消費税の増税、社会保障費の増加など税金に関する話題は多くあります。これから先も「当たり前」と思える暮らしを続けたいならこれらの話題について調べたり考えたりすることも必要だと思います。